

2014年7月の金融経済概況のポイント

■ 景気の基調判断

➤ 景気判断は据え置きました。

—— 前月の「着実に持ち直している」との判断を継続しました。

■ 項目別の变化

➤項目別の判断も据え置きました。

■ ただし、消費税率引き上げの影響（駆け込み需要に伴う反動減）は、一部に残っていますが、着実に縮小してきています。

➤ このため、全体感および個人消費の表現を修正しました。

	6月	7月
全体感	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には着実に持ち直している。	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が <u>一部</u> にみられているが、基調的には着実に持ち直している。
個人消費	駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には、回復に向けた動きが広がりつつある。	駆け込み需要の反動が <u>一部</u> にみられているが、基調的には、回復に向けた動きが広がりつつある。

● 持家の着工戸数は引き続き大幅な前年割れとなっています。また、新車の登録台数も駆け込み需要に伴い積み上がった受注残の消化が進んだことから、前年比マイナス幅が拡大するなど、消費税率引き上げの影響が残っています。

(前年比、%)

	1月	2月	3月	4月	5月
新設住宅着工戸数（持家）	▲17.8	28.8	▲31.1	▲5.0	▲22.9
新車登録台数	32.3	31.2	15.0	▲2.7	▲9.1

● 一方、大型店売上高は、日用品などの一部に反動減が残っていますが、全体としては前年比マイナス幅が縮小してきています。駆け込み需要（3月）と、その後の反動減（4～5月）を均してみると、既に前年を上回っています。

(前年比、%)

	1月	2月	3月	4月	5月	3-5月
大型店売上高	0.0	4.6	14.4	▲6.5	▲3.4	1.2

- 6月以降の動向については、データは入手できていませんが、スーパー等を中心に消費税率引き上げに伴う反動減が着実に縮小しているようです。なかには前年比プラスに戻ったとする先も出ているようです。

また、新車登録台数についても、一部の販売店からは「受注が少しずつ回復している」との声もあり、「今後、新車が投入されれば前年比プラスに戻る」との見通しを持つ先も出てきています。

—— ただし、夏物衣料品については、売上が増加し始める6月が長雨となったこともあり、やや不振となったようです。

- この間、雇用・所得環境が改善傾向を続けていることもあって、時計などの高額商品や和牛、マグロなどの高価格生鮮、高価格帯の寿司などの惣菜の売上が好調を維持しています。

■ ハイシーズンを迎えた観光は、引き続き堅調です。

- 道北地域の観光客の入り込みは前年を上回って推移するなど、引き続き堅調です。こうしたなか、国内やアジアからの観光需要が好調なことを背景に、ホテル・旅館からは「客室平均価格も前年を上回っている」との声が聞かれています。数・単価の両面でプラスの効果が出ているため、その掛け算である売上にもプラスの効果が出ています。

(%、%P)

	1月	2月	3月	4月	5月
ホテル旅館宿泊客数(前年比)	5.3	▲2.6	4.8	3.2	1.1
観光地点動向(前年比)	17.2	0.3	13.1	11.0	5.2
客室稼働率(前年差)	+11.6	+3.3	+3.8	+1.7	+3.4

- 先行き、特に今年のハイシーズンは、旭川～上海の定期便(週3便)の就航効果もあって、堅調な状態が続きそうです。

なお、バス(ドライバー)不足問題については、現時点では大きな混乱・影響は出ていないようです。

以上